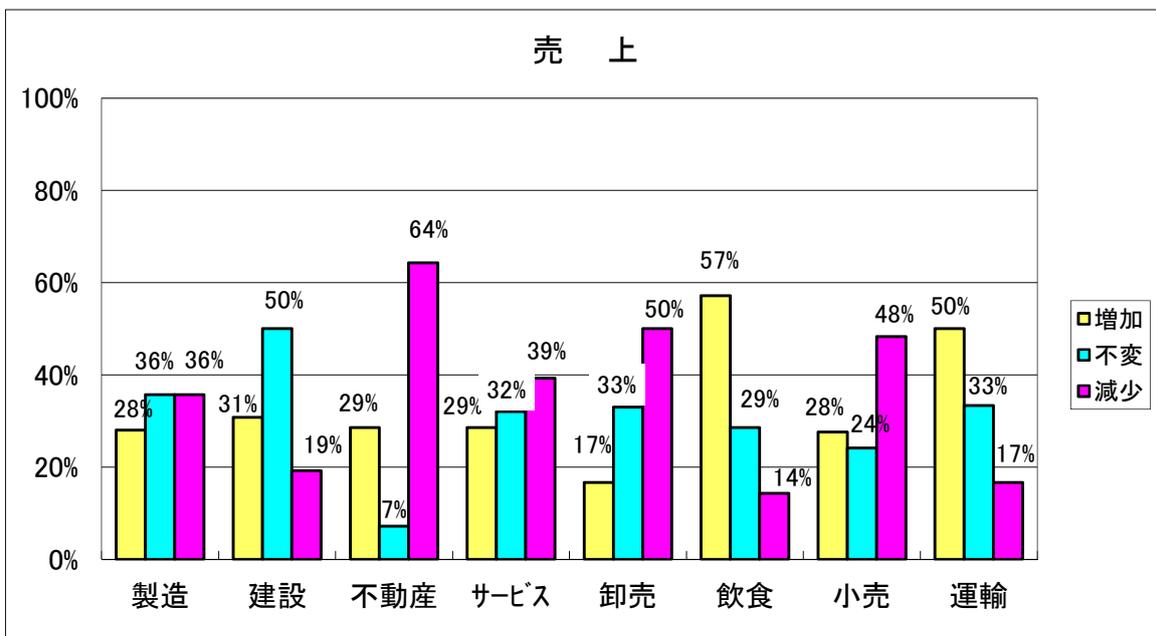


調査1 平成26年1月～6月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と平成26年下期の見通しについて比較表示してある。

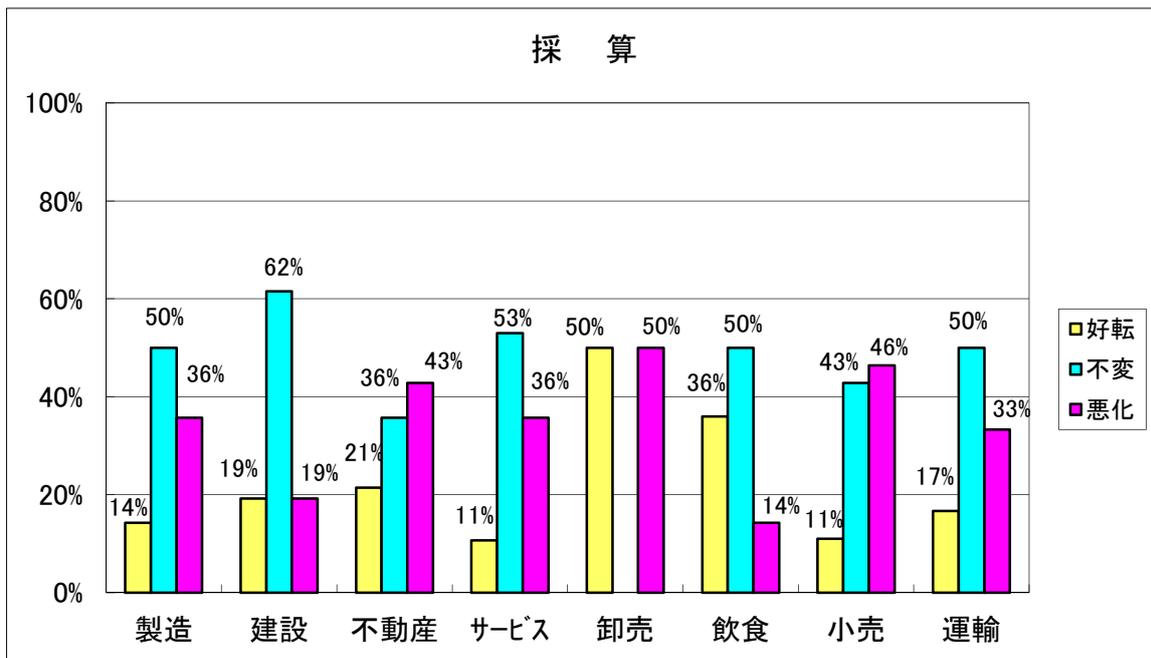
①売上について

売上増加が顕著なのが飲食業(57%)運輸業(50%)建設業(31%)と改善している。売上が減少しているが不動産業(64%)、卸売業(50%)小売業(48%)で厳しい状況である。



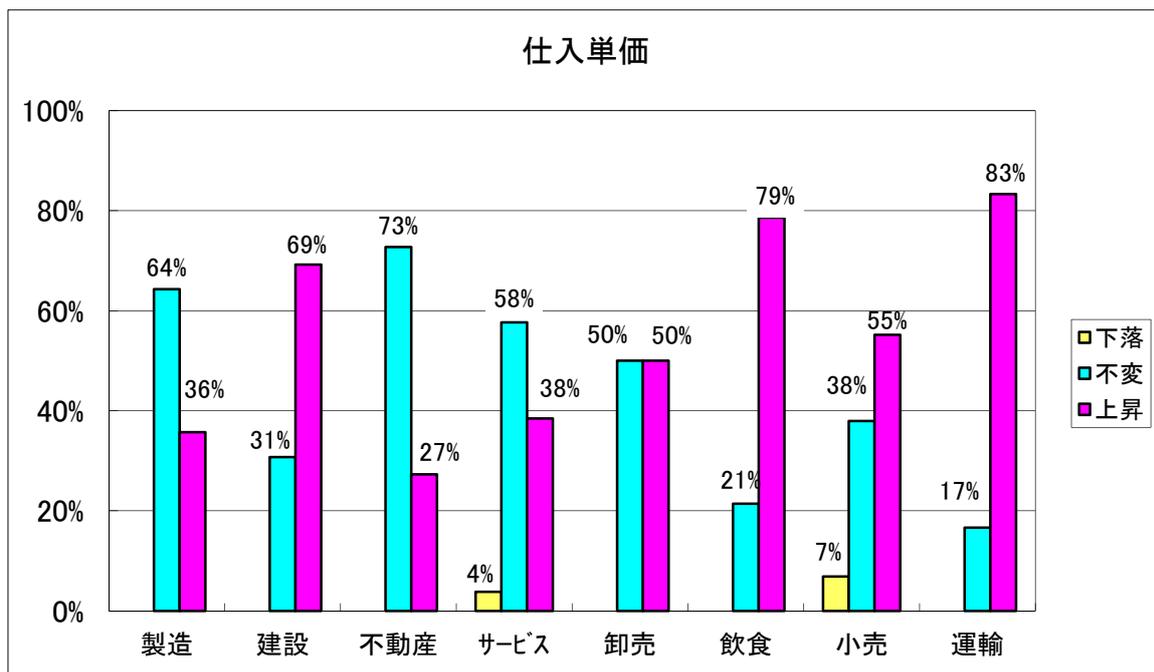
②採算について

全体で見ると、「好転」22% (前回23%)、「不変」43% (前回49%)、「悪化」35% (前回28%)であり、前回調査と比べると悪化している。原材料や仕入値の高騰、燃料費の高騰が要因とみられる。



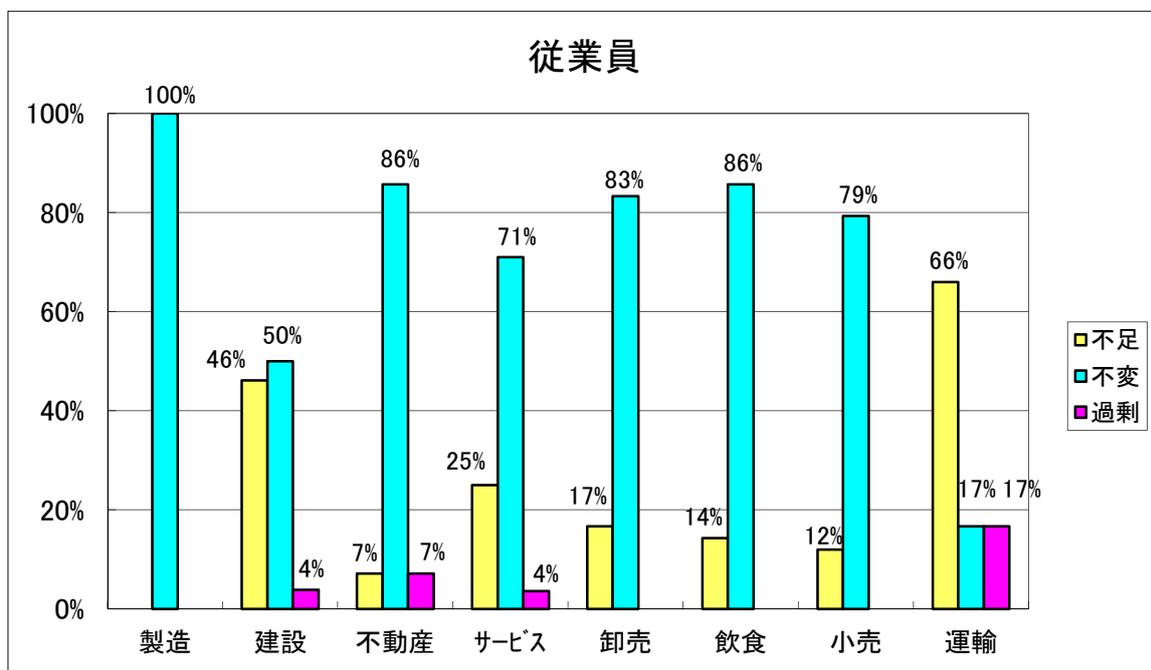
③仕入単価について

仕入単価が「上昇」しているのが運輸業で(83%)、飲食業(79%)、建設業(69%)と円安による原油価格や原材料の高騰が影響している。

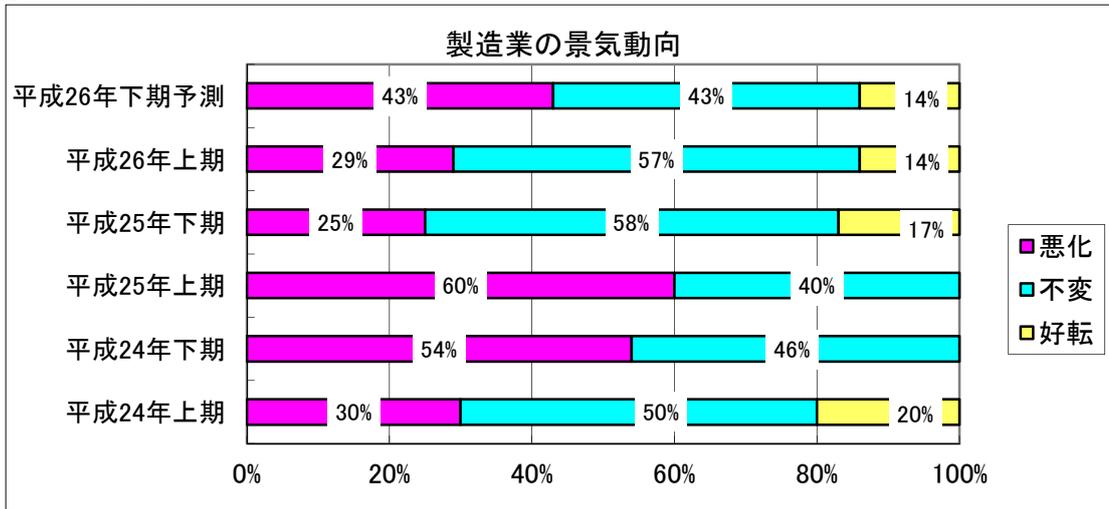


④従業員について

全体で見ると「不変」の回答が多いなか、「不足」との回答が多いのが運輸業66%(前回67%)、建設業46%(前回38%)で人出不足が深刻な状況である。

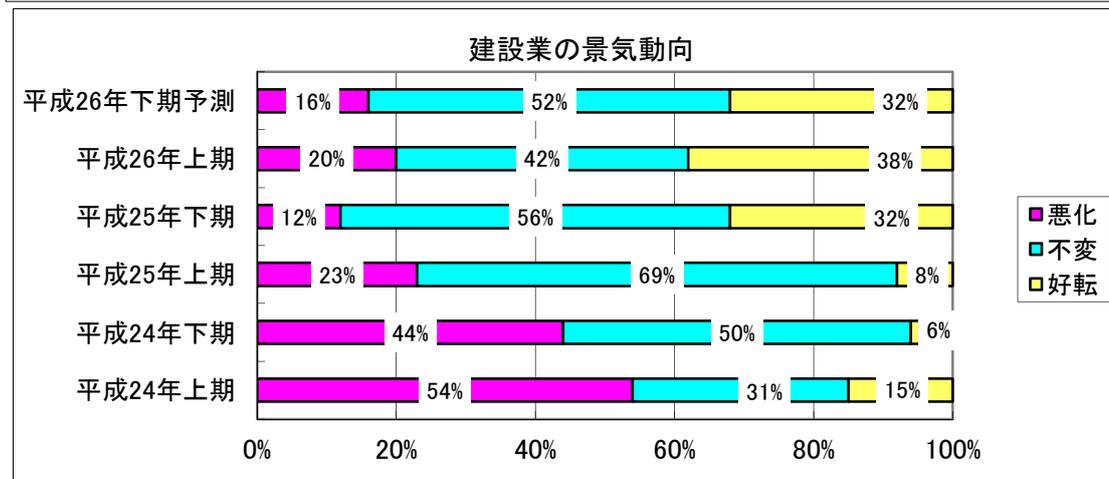


⑤業界の景気動向について



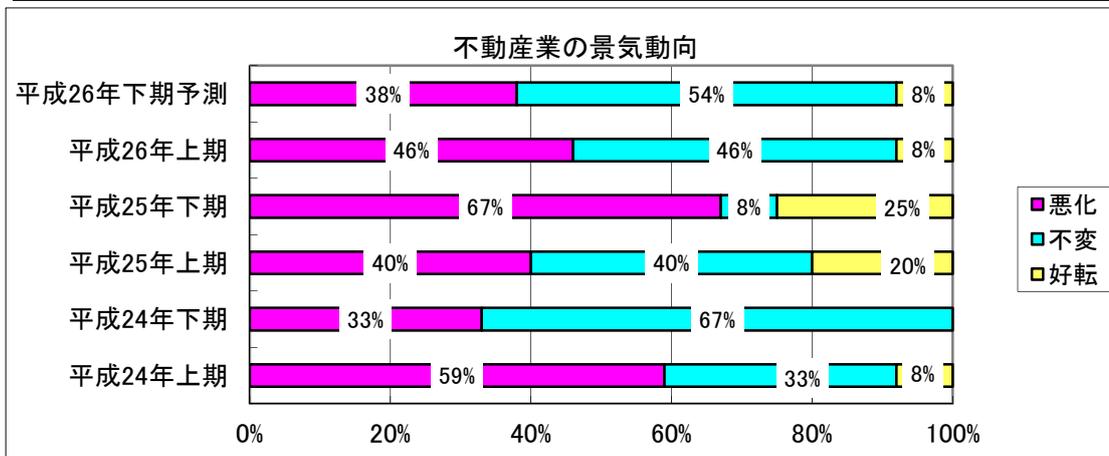
■製造業

平成26年上期では、好転が14%と前回より減少し、悪化は29%と前回より4%増加した。下期の見通しは更に悪化する見込みである。



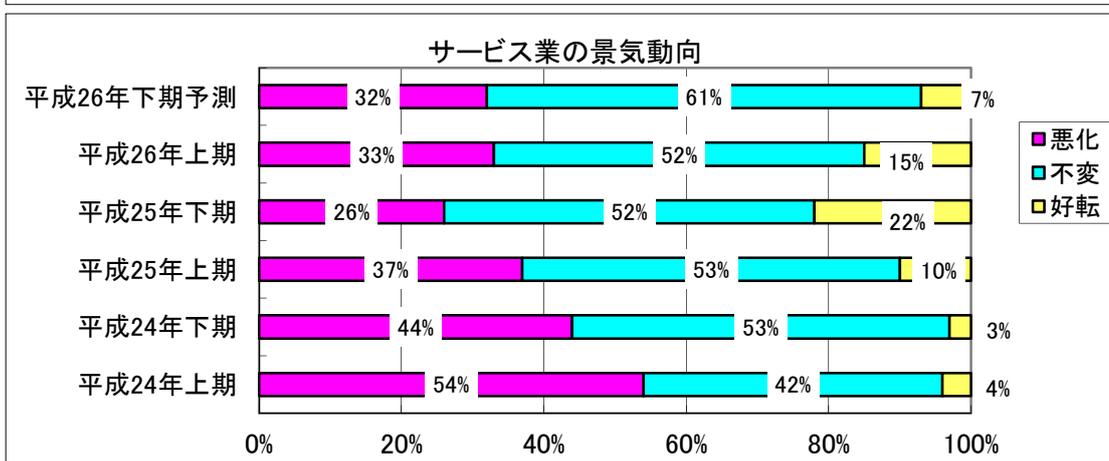
■建設業

平成26年上期では、「好転」が38%と前回より6%アップになっている。平成26年下期の景気も「悪化」が16%へと減少し、景気の回復感は見られる。



■不動産業

平成26年上期は、「好転」が8%で前回よりも大幅に減少した。「不変」が46%と前回の状況からなかなか回復傾向にはない状況である。先行き見通しでも厳しい状況である。

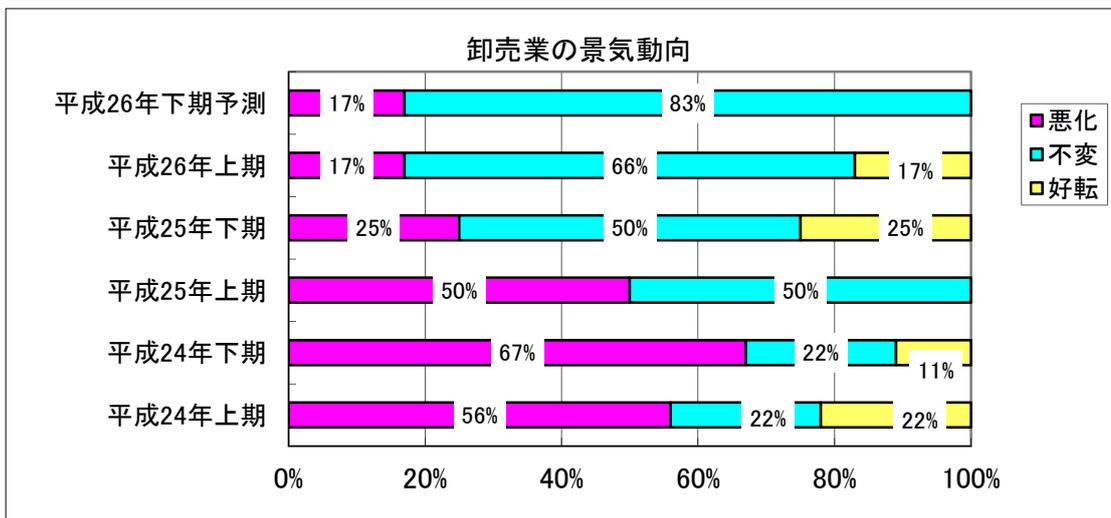


■サービス業

平成26年上期では前回よりも「悪化」が7%とアップし、「好転」が7%とダウンしている。景気の回復感はやや弱い。

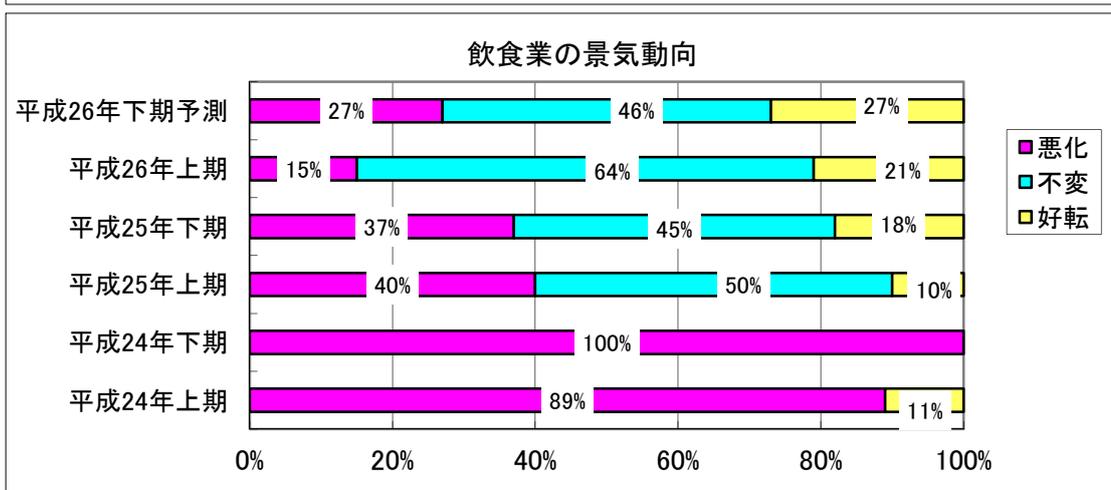
■卸売業

平成26年上期は好転が17%で前回よりも8%ダウンしている。悪化は減少しているもののいまだ景気は停滞している。下期では不変が83%で好転はゼロの見通しである。



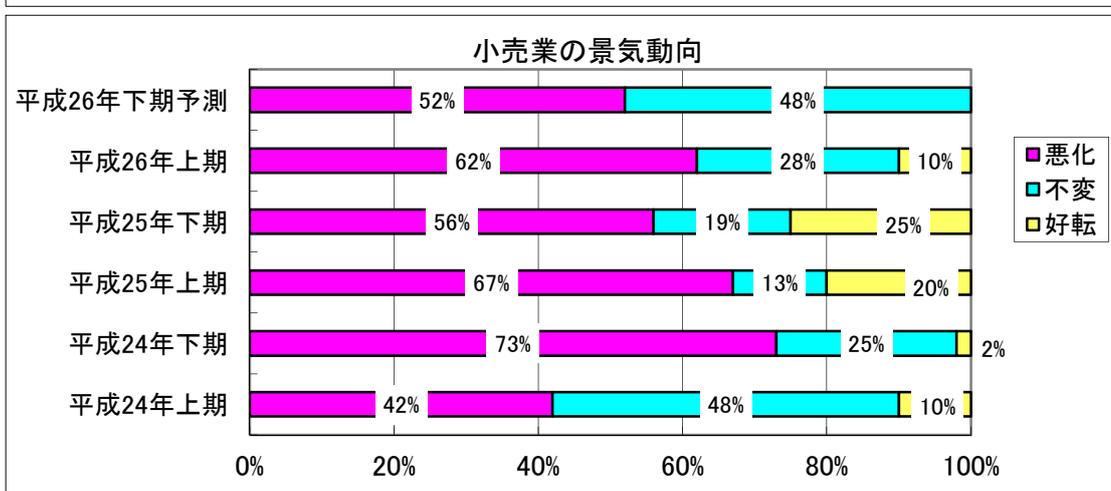
■飲食業

平成26年上期では好転が21%と前回よりアップし、悪化は15%と前回より減少している。下期の見通しでも27%が好転となっており、業界の景気の上向き感がみられる。



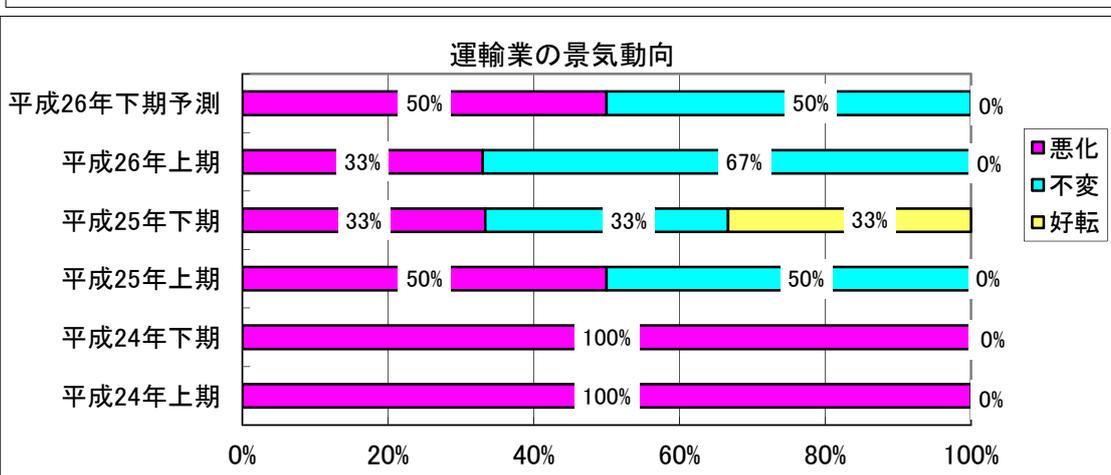
■小売業

平成26年上期は、「好転」が10%と前回よりダウンしている。「悪化」は62%と前回よりもアップしている。下期の見通しも厳しいものとなっている。消費税増税が影響しているものと思われる。



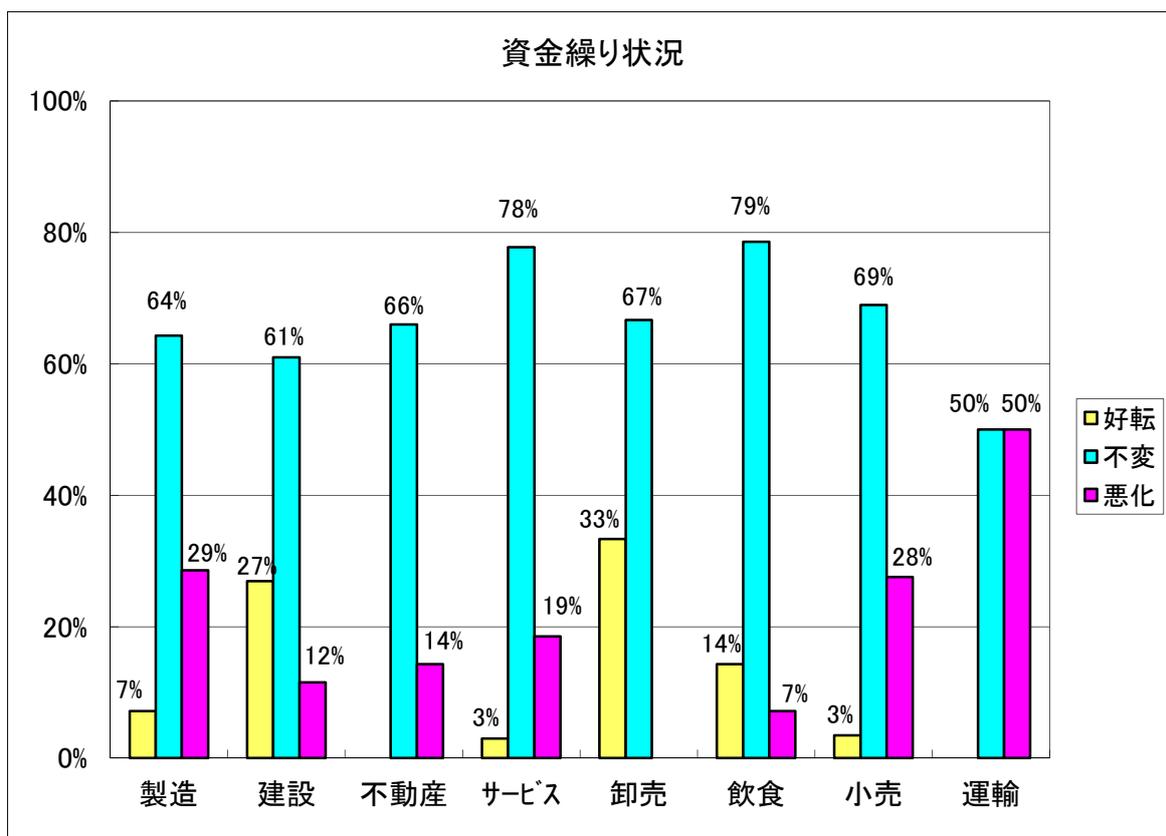
■運輸業

平成26年上期は、「不変」が67%と多く、「好転」はゼロであった。燃料費の高騰が大きく響いている。先行き見通しも、なかなか厳しい見通しである。



⑥資金繰りについて

全体でみると「不変」が67%（前回68%）、「悪化」が20%（前回18%）、「好転」が13%（前回14%）と回答している。



⑦金融機関の融資状況について

全体的にみると「不変」が49%（前回50%）、「融資無し」が18%（前回21%）、「厳しい」が12%（前回9%）、「緩やか」が21%（前回20%）であった。前回より大きな変化はみられなかった。

